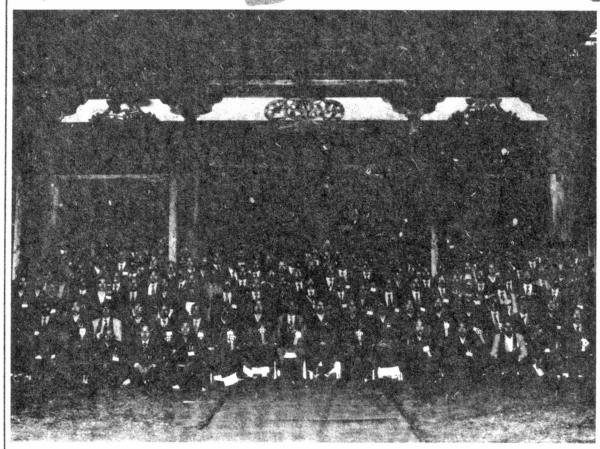
曹青通信

発行所
曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内
編集・発行 曹洞宗青年会
TEL.03-454-5411㈹

地方集会で

地域の特色を生かし エネルギーを結集！



第5回曹洞宗青年会東北地方集会秋田大会 昭和55年10月13・14日 於 天徳寺

既報の通り、全国曹洞宗青年会のメインテーマ「大衆教化の接点を求めて」の強力推進事業である、各管区で開催される、地方集会が、東北地方集会秋田大会・東海地方集会愛知大会を皮切りに、九州地方集会、関東地方集会と、この十月、十一月の間に各地で、各々地域の特色を生かし展開された。尚、中四国集会、近畿集会は明春に開催される予定になっている。

（各々の大会の内容等については、次頁に報告）

去る十月十四、十五日の両日、東北地方集会は、秋田市の名勝天徳寺を主会場に、第五回目の大会が催された。

詳細は先号にて報告済みの事であるが、第一日目の開会式と基調講演、及び分科会を天徳寺で行い、第二日目は会場を市内の第一ホテルに移動して、全曹青活動報告、全体会、決議文の発表等があり、閉会となった。

引き続き、一般公開の記念講演が元カンボジア外交官夫人内藤泰子さんをお迎えし、盛会裡に終りました。

地域における活動の連携を深めよう

青年宗侶のエネルギーを結集しよう

社会的価値ある活動をしよう

青年宗侶の自覚を促そう

又、日時を同じくして、第四回の東海地方集会が愛知県湖西市の伊良湖に於て、「深めよう自覚と連帯」のテーマのもとに開かれ、記念講演を作家、杉浦明平氏をお招きして「私の宗教観」と題して講演され、地域の会員八十余名の参加を得て、盛会に催された。

更に、講演に続いての「交歓のタベ」における打解けた語らい、翌十五日には、各地区区対抗のフットボール大会が企画され、一層の親睦を深めて散会となった。

十月三十、三十一日には、九州地方集会が第九回目の催しを、長崎県諫早市に於て開かれた。

今年は大衆教化の一端として、広く一般の人々に、特に若い人達に知っていただく試みとして、講師に青山俊董尼をお迎えして、市内の市民センターにおいて、文化講演会を開催した。会場には満席の二百名余りの参加を得て、盛会な会となった。

又、翌日は各県の曹洞宗青年会活動報告や、座談会などがもたれ、熱心に討論し合う中、十二時過ぎ閉会となった。

3/12～14日 第3回禅文化学林
3/11～12日 後期中央禅の集い
静岡県に於て開催決まる。

九月三十日及び十月二十九日の両日、総会企画委員会の研修部担当者は宗務庁において研修部会議が宗務庁において開催され、種々企画検討中でありました本年度後期中央禅の集い研修会並び第三回禅文化学林について、明春三月、静岡県「石雲院」における打解け懇親中央禅の集いの企画が決まり、現在、企画研修部門の専地委員長を中心に内容が検討されつつある。

なお、十月中に開催の予定でありました前記の後期中央禅の集い研修会が、各地方集会（大会）の行事が秋に集中すると共に今年は永平寺・祖師師七〇回の遠忌記念事業が修行され、日程的に困難となりましたため、三月に延引されたことお詫びいたします。

明春、三月十一日より十二日まで、一泊二日の日程で開催の後期中央禅の集い、研修会は、昨年宗門行持を、参加者を聞き実修しながら講義を聞き実修しつつある。

お授戒（会）において全曹青の授戒（会）として企画され、青年会員もまた将来、住職としてお授戒（会）を行ってゆくよう、その成果であった。

「拓かれた寺院の姿を」というサブテーマを決定したのも、青年宗侶の寺院を取り巻く諸環境からの願望であったのであろう。

東南アジア難民救済事業にて、「難民を取り上げ全国に托鉢運動を展開したのは、一つの成果であった。青年宗侶は、先ず願に汗して実践するこである。

「理想は高く掲げ、しかも現実は脚下から」ということである。この点から見れば、一脚下」からの発想転換ならば、誰でも出来るであろう。

地方の単位曹青とのように連携を深めていくかが、今後の課題であろう。

▼日本国内においては、来年度子算が審議されつつある昨今、「酷税、苛税」の感を深くしている。

税制改正の大綱は、約一兆四千億円の史上最高さが、郵便料も上がるし、妻うつな気分である。又「恒例の暮閣には、10%ベアを要求して、労働四団体の足並みがそろったようである。「週休二日制」「定年六十歳の普及」等々、我々の寺院、ないし宗門に置きかえてみたくなるような気がする。

高い宗費を納め、年々上昇である地方費家では、冷夏でこの年の収穫をどう過ごそうかと思っている地方の人々もいる。その中にある寺院の運営は大変である。それでも法燈を守っていけるだけは良いのかもしれない。寺の運営が大変であると、決っていれる。それは「道心」の欠如であるこ…

しかし、宗門には、立派な梅花講もあり、婦人会、少々心もとないが全曹青という会もある。が今常に、大衆の心を掴める。

に向けられる運動を志向することが、まさしく大衆教化の根源であり、ここで、ある意味で、青年会運動が、常に国民皆無という大きな目標に向って、さらに一歩を進められることを祈念いたします。

曹洞宗心の電話

仏教では、佛と衆生とは本来全く差別のないものです。しかし、衆生は本来佛であることを忘れており、佛の教えに背いた生活を続けているのです。罪とは、佛の教えに背いた生活を続けたことと存ります。

申すまでもなく、禅のつどいは一人でも多く参禅の機会をもたせる。いわば、禅の大衆化の運動であります。大きくは、「国民皆禅運動」として、共通の悩みを語り、しかしながら、近年、運動のマ

昨年のNHKの青年対象の調査による「あなたは坐禅をしたいと考えますか」という問に、七十五パーセントが、その意志があるが、実に四人に三人が自己修養として坐禅を求めている結果がでております。

深夜放送の水平寺参禅の企画が申込み制限をしたり、喫茶店"なむ"の立誠法が盛況を呈するという昨今、青年会に望まれることは大衆の欲求を肌で感じる触覚を養う姿勢です。

シネリ化が叫ばれ、つどいそのものの有り方が問われています。ここで、ある事実を求めて、運動の意義を考えてみなければなりません。

熱を忘れることができません。

その意味で、青年会が発足以来"大衆教化の接点を求めて"を運動テーマとし、禅のつどいの今日の展開を目指しているのは当を得たことと存ります。

大衆教化の接点を求めて

出版部長　小川義道

全曹青に望む

まずもって、大本山永平寺・祖師前に、「禅のつどい連絡協議会」「曹青連」と長く先人が神のつどい氏をはじめ、芦田伸介氏のナレーション、東京交響楽団の演奏と、一流のアーチストにより、只管打座の世界を音楽に表現しようとした意図は、両期のなるものであり、高く評価されるものであると信じます。

思いますに、青年会運動の原点は神のつどいであり、只管打座の広範な普及が基本にあると存ります。今年、曹洞宗青年会は結成六周年を迎えるわけですが、その以来、本年度に開催された、「大衆教化の接点を求めて」の強力推進事業である、各管区で開催される、地方集会、関東地方集会と、この十月、十一月の間に各地で、各々地域の特色を生かし展開された。

尚、中四国集会、近畿集会は明春に開催される予定になっている。

（各々の大会の内容等については、次頁に報告）

発行所
曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内
編集・発行 曹洞宗青年会
TEL.03-454-5411㈹

青年宗侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年宗侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

ご寺院の豊かな明日をクリエイトする

ご存知ですか？！

私達の仕事は

・建築営繕工事
・インテリア工事
・管理工事（管理プレート、案内板）
・デザイングラフィック印刷
・墓地測量（墓地造成、設計）
・保険事業（生命保険、損害保険）
・墓地境内清掃
・除草剤散布
・堂内清掃
・環境用品販売
・事務器機販売
・害虫駆除
・白蟻予防駆除
・焼却炉設置販売
・オフィスインテリア設計販売
・木家具ファニチェア販売
・健康食品販売（ローヤルゼリー他）
・ガラスクリーニング
・ジュータンクリーニング

◎法律・建築・会計その他各種無料相談をお受けしております。御利用下さい！

正社員募集中……

ご寺院出身の熱意ある方を求めます。
○18才～35才までの男子
○18才～23才までの女子
○寺院営業/企画/一般事務
○詳しくは総務部までお問い合せ下さい。

日本寺院株式会社
〒160 東京都新宿区百人町1－13－2 三昭ビル4F
TEL 03 (364) 0671～3

確信と対応

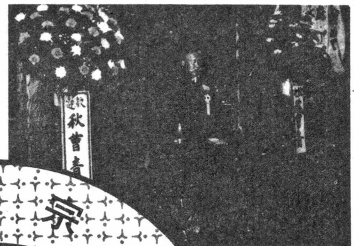
～今青年宗侶は何を為すべきか～

（第５回東北地方集会秋田大会）

第五回目を迎えた東北地方集会は秋田市を会場に、去る十月十三日十四日にわたって開催された。第一会場となった天徳寺は、秋田藩主佐竹公の菩提寺で県の重要文化財に指定されている名刹で、曹洞宗青年会の集会には又と無い環境であった。

十月十三日、定刻の開会式は本尊上供に続き、大会会長葦原正憲実行委員長戸部英二の歓迎挨拶と来賓祝辞をいただいた。

続いて、秋田県第十四教区高昌寺住職楢岡貞龍氏の「青年宗侶に望み」と題しての記念講演は、自己の体験を通して、青年宗侶のあるべき姿を切々と説いた熱演で深い感銘を与えた。



東北地方集会で最も重要な分科会は、集中討議と、三分科会にしぼり、第一分科会は『社会の中で私たちは何をしているか』第二分科会は『確信の和を拡げよう』第三分科会は『後継者を考える』と題し、あらかじめ各県より発表者を決め効果的に進めた。

どのテーマも少ない時間で討議出来る問題ではなく、どの分科会も時間の不足を訴え、それだけに熱心な討論がなされた。

特に今大会は、カンボジア難民救済の進め方等、実際現地に入ったメンバーの体験発表にもとづき、熱の入った分科会となった。

秋の日はつるべ落し、とっぷり暮れた第一会場から第二会場の秋田第一ホテルに移動し、地元スタッフの心ずくしの郷土料理とアトラクションで懇親の輪が拡がっていった。

翌十月十四日は早朝から全曹青会長佐藤泰惇氏の全曹活動報告があり、次に東南アジア難民救済会議の有馬実成氏からの現地報告の後、全体会が行なわれた。

又東北曹青地方集会恒例の決議文が大会会長より発表された。

十時三十分より秋田曹青創立三周年を記念した文化講演は元カンボジア外交官夫人の内藤泰子氏を講師に『カンボジアわが愛』と題し一般公開になる講演で、体験を通したカンボジアの実状と平和であることの尊さを訴え満場の聴衆に感銘を与えた。

又、大会期間中、市内歓喜寺では『カンボジア難民キャンプ写真報告展』を開催し、子供達の絵画などが反響をよんだ。

報告者　戸部　英二

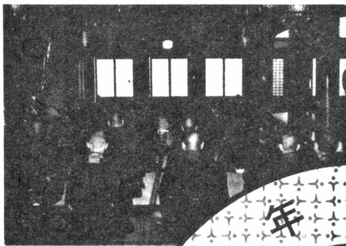
教化活動と寺院運営

～80年代を迎えて寺は何をなしうるや～

（第５回関東地方集会神奈川大会）

第五回曹青関東大会が十一月二十九日～三十日と最乗寺を会場としておこなわれ、集う会員は六十余名、それぞれ模索の途路にあるものであるが熱心に集会、講演活動を行なうことができた。

実践報告では、茨城県岡部君より、写経や地蔵尊供養を中心としての檀家との結びつき、会館の建立をはたした集寺の活動状況、また茨城曹青の組織についての提言があり、活発なる意見交換が行なわれた。又、群馬県の設楽君により、永年にわたり同県各所で行なわれた禅の集い、一泊接心会、チャリティーショー等コツコツと積み上げられた実績に立っての報告がなされ「花開けば蝶来たる。」の心を一同新たにした。



なお神奈川県竹田君により、横浜近郊の新興住宅地において、老人ホーム、保育園、写経会、梅花講、剣道など手広くかつ実りのある内容が報告せられ、寺檀一つになっての活動の大切さ、それにともなう方法、心がまえ、また問題点等にも討論がなされた。

講演に於ては、大法論の渡辺照敬師より「社会のニーズと教化活動」と題し、ダイヤル相談「菩薩の声」の実践から、この混迷の世相を生きている人々の悩み苦しみをいかにいやし、どう説いていったらよいかを実例をまじえて講ぜられ、方向をさがしている曲り角の時代においては、我々仏教者の肩にかかる期待は大であるとの提案がなされた。

また、講演ではNHKの岩本汎氏は、一九七四年より八〇年に至る病める大国の患部、人種、性、麻薬、家庭の崩壊、ニーズムと呼ばれるしらけ現象などは、ベトナム戦、ウォーターゲート事件を引がねとし、政治、家庭、宗教などへの不信から社会体制のモラルの変動により起ったことなど、現場にいなければ感知できない問題点をえぐりたし、今後の日本のあり方への警鐘とした。

最後に、会場主である、余語老師の法話に「世間相場で動いている方向に教化の接点を求めるならばそこに没在し流されてしまう。仏性の起伏の中にそろばんをこえた風光の中に立って、皆様と共に歩むことが大切である。」とあり、参加者自戒を深くしたしだいである。

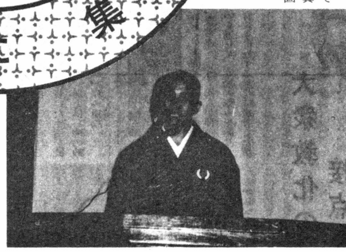
報告者　大利　俊明

青年宗侶 地方集会 深秋に集う

仏教文化講演会

＝禅のこころ＝
「今日を、今を大切に生きる」

（第九回九州地方集会）



去る十月三十、三十一日、紅葉の映える晴天のなか、長崎県諫早市に於て、曹洞宗青年会九州大会が長崎県曹洞宗青年会の当番で開催された。

まず三十日は、地元曹青会員による広報活動を兼ねた、カンボジア難民求済の托鉢を行う中、九州各県より続々と各曹青会員が参集になり、全国曹青会長佐藤泰惇氏をはじめ、全曹青幹部の方々をまじえて、四時より九州大会を開会した。

各県曹青の活動状況報告後、曹青会の運営をめぐり、活発に意見が出され、とうとう翌日にまで引き継がれることになった。

六時からは諫早市民センターに於て長崎県曹洞宗青年会主催、全国曹洞宗青年会共催、長崎新聞社後援による「禅のこころ」と題する講演会が催された。講師には愛知県専門尼僧堂堂頭青山俊董尼をお招きして、広く一般市民にも門戸を開放しての講演会であった。

会場はほぼ満席という盛会の中で青山尼は、「真実の出家とは何であるか」そして「禅のこころとは何か」について講演され、一般市民聴衆一同、感激のうちに無事講演会を終えた。さらに、宿泊所である水月桜に会場を移して懇親会がもたれた。

翌三十一日は朝食後、青山尼および尼とは駒大同級生である諫早公菩提所天祐寺副住職須田道輝師を囲み、座談会がもたれた。活発な話し合いが進み、青山尼の出発時刻間際まで、充実した一時を過せた。

ここでは住職になっている会員を中心に寺院経営について質疑が出され、「葬式仏教から脱皮するためには、本当の葬式をしなければならないでしょう。」という旨の意見があり、大いに肝に銘じた。

講師出発後、前日の九州大会で不充分だった事項について、再び論議された。その内容は曹青会の理念、目的、組織論、運営など、曹青会の根幹にふれる意見が多く出され、貴重且つ、熱っぽい論議がかわされた。

又、未加入の青年宗侶に対する呼びかけ、各曹青の活動内容の全国的規模での発表が約束され、次回の九州大会を熊本県曹青の当番で開催することを確認し合って、成功のうちに閉会となった。

報告者　三浦　道彦

私の宗教観

＝東海は一つ＝
「大衆教化の接点を求めて」

（第四回東海地方集会）

十月十三、十四日第四回東海地方集会（実行委員長彦坂昌美氏）が、愛知県渥美郡の名勝、伊良湖にて開催された。昨年の大会後、東海地区連絡協議会（釜田隆文会長）に於て検討の結果、今回は全曹青の大遠忌事業を優先とし、地方集会は会員相互の自覚と組織の拡充を目的とする大会となるよう計画された。

十三日午後三時より「シーサイド伊良湖ホテル」会議室に於て開講式が行われた。会長より、先月の永平寺結集に東海地区より百名近い参加者があり、成功のうちに終った事の報告と、二日間に渡る地方集会の目的達成の為、互いに研鑽されん事を願う挨拶で開会された。続いての記念講演は、中央文壇を避け、鍬を持ち、土に親しみながら文筆を奮っておられる郷土の作家、杉浦明平氏（東京大学文学部卒、自由思想家、著書「ルネサンス文学の研究」、「小説・渡辺華山」等）に、「私の宗教観」と題して講演をいただいた。飾り気のない話しぶりに、宗教に対して独自の考えから、我々青年僧侶に対しても俗人の一人として、今の宗教が現実の生活と密着し、活かされているだろうかと問われ、青年会結成以来のメインテーマ「大衆教化の接点を求めて」に触れるとこが多く、宗教者としての実動的なアピールを促されるものがあった。

各単位曹青に於ても、難民問題や、同和問題、法式声明研修等がなされた。又、年一度の結集にあっては、各地の情報交換も大切であり、講演に続いての「交歓の夕べ」では、それぞれに修行の頃を語り、今在る自分の立場での生き方を共に語り論じ合う親睦の場となった。

翌十四日は朝八時より、グランドに於て、各県対抗の親善ソフトドール大会が開始され、スポーツの秋にふさわしく、接戦が繰り広げられた。戦果は、優勝―静岡第三、準優勝―愛知第三、の各宗務所であった。

最後にホテルで昼食を取りながら、表彰式と閉会式が行われ、これからも研修、親睦を通して、「東海は一つ」の団結こそ、現在の混迷社会に正法を伝える青年僧侶の使命である事を確心し合い、閉会とした。

報告者　桜井　孝順

永平寺二祖国師大遠忌奉讃記念レコード

カンタータ〔只管打坐〕　交響曲〔涅槃〕限定 5,000枚

■題字・不老閣猊下御染筆
■30センチＬＰ・ステレオ
協賛頒価 **5,000円**

作曲・指揮＝黛　敏郎、台本＝藤田敏雄、演奏＝東京交響楽団、合唱＝日本プロ合唱団連合、ナレーション＝芦田伸介、独唱＝原田茂生、録音＝アオイスタジオ。

限定版ですので、お早目にお申込下さい。

申込先　曹洞宗宗務庁内、全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝２－５－２
TEL 03 (454) 5411 (代)
振替　東京　1－130539　又は現金書留にて

永平寺二祖国師700回大遠忌奉讃記念レコード
カンタータ『只管打坐』
『涅槃』交響曲　限定5,000枚

予　約　申　込　書

申込枚数　　　枚　金　　　円
住　所〒
氏　名
TEL　　―　　―　　㊞

曹洞宗青年会

カンボジア難民救済・交通遺児対策義援金芳名録

自昭和55年1月10日～至昭和55年11月30日

滋賀県村瀬信行殿　五、〇〇〇円
愛知県富尻智恵殿　五、〇〇〇円
広島県横山正賢殿　一、〇〇〇円
神奈川県安藤実英殿　五、〇〇〇円
群馬県峯岸秀哉殿　一、〇〇〇円
大分県平岡正堂殿　一、〇〇〇円
山口県谷地元清学殿　一、〇〇〇円
京都府大山義郎殿　一、〇〇〇円
新潟県石田了丸殿　一、〇〇〇円
岩手県高屋行継殿　一、〇〇〇円
千葉県松本力也殿　一、〇〇〇円
長崎県蓬山正德殿　二、〇〇〇円
熊本県隣峰寺寒行会下川殿　一、〇〇〇円
愛媛県愛媛青年会第三教区殿　二、〇〇〇円
愛知県石塚若山玄芳殿　二、〇〇〇円
福井県石塚良光殿　五、〇〇〇円
鹿児島県飯尾寛治殿　五、〇〇〇円
福井県小川清司殿　三、〇〇〇円
兵庫県金沢宗明殿　三、〇〇〇円
静岡県阪野全治殿　二、〇〇〇円
愛知県長田禪苗殿　二、〇〇〇円
埼玉県金剛秀房殿　五、〇〇〇円
愛知県井下善男殿　二、〇〇〇円
静岡県白鷺洲孔清殿　二、〇〇〇円
静岡県田中孝教殿　二、〇〇〇円
山形県矢萩作廣殿　二、〇〇〇円
鹿児島県冨永国敏殿　二、〇〇〇円
岐阜県岩水竜峰殿　二、〇〇〇円
高知県上田俊幸殿　三、〇〇〇円
愛知県宮城佐藤祐光殿　二、〇〇〇円
三重県井尻嗣生殿　二、〇〇〇円
静岡県近藤浩敏殿　二、〇〇〇円
山形県秋場泰隆殿　一、〇〇〇円
山形県鮭延棄意殿　一、〇〇〇円
宮城県佐藤祐光殿　二、〇〇〇円
愛知県鈴木正教殿　二、〇〇〇円
愛知県山守成修殿　一、〇〇〇円
愛知県泉沢泰成殿　二、〇〇〇円
山形県原田雅道殿　二、〇〇〇円
北海道前谷光明殿　五、〇〇〇円
静岡県南原義顯殿　三、〇〇〇円
宮城県伊串昇顯殿　三、〇〇〇円
愛知県石田一正殿　三、〇〇〇円
愛知県細川昭芳殿（第二教区一同殿）　一、〇〇〇円
三重県山本哲成殿　三、〇〇〇円
新潟県清久寺殿　二、〇〇〇円
兵庫県小林道雄殿　一、〇〇〇円
岡山県正衆寺殿　一、〇〇〇円
福島県矢内健之殿　五、〇〇〇円
群馬県新井正道殿　五、〇〇〇円
愛知県井上義巨殿　五、〇〇〇円
青森県盛厳院殿　五、〇〇〇円
岐阜県杉崎堯信殿　一、五〇〇円
岐阜県杉崎良憲殿　一、五〇〇円
岐阜県高橋定中殿　三、〇〇〇円
新潟県中良盛殿　三、〇〇〇円

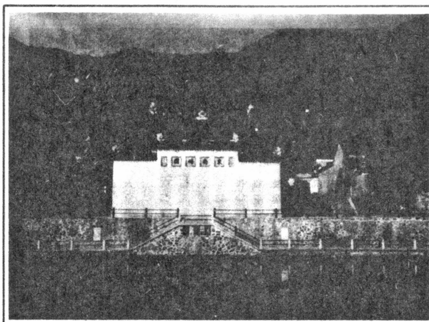
愛知県加藤宏道殿　三、〇〇〇円
千葉県田中成章殿　五、〇〇〇円
福島県遠藤龍弘殿　一、〇〇〇円
秋田県佐藤廣俊殿　一、〇〇〇円
東京都上杉憲孝殿　一、〇〇〇円
静岡県鏡島元昭殿　一、〇〇〇円
静岡県石井祐光殿　五、〇〇〇円
北海道木村清滔殿　三、〇〇〇円
山形県佐藤栄一殿　三、〇〇〇円
静岡県浅香清志殿　三、〇〇〇円
山口県谷地元清学殿　五、〇〇〇円
静岡県赤堀興斎殿　二、〇〇〇円
福井県氷井智海殿　二、〇〇〇円
静岡県大村正順殿　五、〇〇〇円
山形県山本学殿　五、〇〇〇円
宮城県玉川一郎殿　五、〇〇〇円
三重県堀井宏憲殿　五、〇〇〇円
山口県奥元寿殿　一、〇〇〇円
秋田県下鎌倉保育所職員一同　五、四〇〇円
長野県斉藤泰全殿　三、〇〇〇円
岩手県三宅俊禪殿　三、〇〇〇円
兵庫県宮崎和朗殿　三、〇〇〇円
宮城県千田豊穂殿　三、〇〇〇円
静岡県桜井考順殿　五、〇〇〇円

山形県秋場祐三殿　二、〇〇〇円
福島県野崎考宗殿　五、〇〇〇円
秋田県佐藤廣俊殿　二、〇〇〇円
山形県奥山德行殿　二、〇〇〇円
岐阜県佐藤大用殿　二、〇〇〇円
北海道石井保治殿　五、〇〇〇円
山形県鈴木昭雄殿　二、〇〇〇円
山形県置賜地区青年会殿　二、〇〇〇円
東京都長尾龍心殿　二、〇〇〇円
福島県吉岡棟憲殿　三、〇〇〇円
兵庫県黒田教道殿　三、〇〇〇円
山口県谷地元清学殿　二、〇〇〇円
静岡県石川輝年殿　二、〇〇〇円
三重県市河広峰殿　五、〇〇〇円
宮城県酒井勝禪殿　五、〇〇〇円
山形県安野重幸殿　三、二三五円
山形県松田英章殿　三、〇〇〇円
山形県伊藤直俊殿　三、〇〇〇円
愛知県愛一曹青会殿　一、〇〇〇円
愛知県佐野令彬殿　五、〇〇〇円
愛知県松秀寺観音講殿　五、〇〇〇円
岐阜県樺山舜亮殿　五、〇〇〇円
愛知県柿本大眞殿　一、〇〇〇円

茨城県日立精神薄弱者育成会殿　一、〇〇〇円
島根県曹青会会長堅田英伸殿　五、〇〇〇円
千葉県葛原利生殿　一、〇〇〇円
長野県小笠原隆元殿　一、〇〇〇円
北海道石井英敏殿　一、〇〇〇円
福島県光英明法殿　五、〇〇〇円
愛知県第二曹洞宗青年会殿　二、八、七一二円
佐賀県佐賀青年会殿　二、〇三、四四九円
京都府大山義朗殿　三、〇〇〇円
山口県谷地元清学殿　二、〇〇〇円
愛知県星野道雄殿　二、〇〇〇円
茨城県大雄院殿　二、〇〇〇円
茨城県日立精神薄弱者育成会殿　二、一、五四五円
宮城県千田豊穂殿　三、〇〇〇円
埼玉県梶田スマ殿　三、八七六円
埼玉県業寿院殿　五、八七一円
愛知県桜井清道殿　二、〇〇〇円
神奈川県横山敏明殿　一、〇〇〇円
愛知県長坂好人殿　五、〇〇〇円
茨城県羽賀宏元殿　一、〇〇〇円
静岡県第三宗務所第三同志会殿　五八、五五一円
岐阜県青年会中農支部殿　八、〇〇〇円
埼玉県中村賢三殿　三、五八四円
愛知県佐藤泰惇殿　一四、二六〇円
茨城県大雄院殿　五、〇〇〇円
広島県鈴木章純殿　四、六七四円
京都府京都青年会殿　四、〇〇〇円
茨城県日立精神薄弱者育成会殿　五九、二〇〇円
奈良県河村松雄会長殿　二、〇〇〇円
愛知県山田俊幸殿　五、〇〇〇円
愛知県井川徹明殿　五、五七七円
岐阜県中川徹哉殿　五、五七七円
茨城県曹洞宗青年会殿　一〇、一七一円
埼玉県桜井德殿　一、〇〇〇円
神奈川県佐藤惣一郎殿　一、〇〇〇円
新潟県鈴木浄雲殿　一、〇〇〇円
愛知県佐治真雄殿　七、〇〇〇円
北海道仲川正純殿　三、〇〇〇円
東京都木戸純子殿　一、〇〇〇円
鳥取県西郡青年会殿　二、〇〇〇円
千葉県千葉青年会殿　一七、〇〇八円
兵庫県清久寺殿　五四、〇〇〇円
埼玉県渋谷万利子殿　一五、〇〇〇円
長野県山本興二殿　四、〇〇〇円
群馬県茂林寺古山正山殿　七、〇〇〇円
愛知県愛知第一曹洞宗青年会殿　五、〇〇〇円
秋田県戸部英二殿　一八、〇〇〇円
京都府山下道一殿　一八、〇〇〇円
茨城県日立精神薄弱者育成会殿　九、三五〇円
茨城県大雄院殿　六、八一五円
秋田県永藏寺檀信徒一同孝道殿　三、四一一円
愛知県宝昌寺新川孝道殿　七六、三五〇円
愛知県勝楽寺伊藤泰仁殿　三、〇三〇円
群馬県群馬青年会殿　二、〇〇〇円
静岡県安田光彰殿

神奈川県鈴木大源殿　一、〇〇〇円
京都府向山章道殿　一〇、六九七円
愛知県大塚全教殿　三、〇〇〇円
愛知県松秀寺殿　一四、二四五円
秋田県永藏寺檀信徒一同殿　一四、〇〇〇円
茨城県日立精神薄弱者育成会殿　一〇、〇〇〇円
長崎県祥雲寺檀信徒一同殿　三、四〇〇円
愛知県福山豊洲殿　三、〇〇〇円
山形県小笠原英俊殿　三、〇〇〇円
高知県高橋鐵肝殿　一、〇〇〇円
愛知県秋田野令彬殿　一七、〇〇〇円
鹿児島県富永国俊殿　二、〇〇〇円
福島県遠藤龍弘殿　五、〇〇〇円
三重県曹洞宗青年会殿　四、〇〇六円
埼玉県中尾良信殿　三、〇〇〇円
兵庫県中尾良信殿　八、〇〇〇円
愛知県浅井義博殿　一五、七一一円
愛知県遠藤城寺殿　四、八〇八円
埼玉県饗寿院殿　四、八〇八円
茨城県伊藤清悦殿　五、〇〇〇円
茨城県大雄院殿　四、八八五円
秋田県永藏寺檀徒一同殿　一七、〇〇〇円
茨城県日立精神薄弱者育成会殿　八、三三〇円
愛知県竜江寺殿　五、〇〇〇円
東京都中野東禪殿　一、〇〇〇円
秋田県谷地元清学殿　四、〇〇〇円
茨城県大雄院殿　二五四、三三九円
東京都西尾真代子殿　五、〇〇〇円
宮城県本秋山泰教殿　五、〇〇〇円
山形県富士盛良一殿　五、〇一七円
大分県有徳幸殿　二、〇〇〇円
鹿児島県鬼塚昌道殿　二、〇〇〇円
岩手県興禪院殿　五、八〇〇円
茨城県日立精神薄弱者育成会殿　五、一二五円
宮城県佐々木道芳殿　一、〇〇〇円
長崎県水町宗典殿　一〇四、〇〇九円
茨城県泉沢泰成殿　三、〇〇〇円
東京都大雄院殿　一、八二五円
愛知県村上俊孝殿　五、〇〇〇円
愛知県柴田倉蹴雄殿　五、三五一円
福島県長泉寺学智教室生徒一同殿　八、〇〇〇円
秋田県永藏寺檀信徒一同殿　四、五一四円

◎合計金額　二、七九九、一三八円
◎難民救済金購ワクチン代拠出　三月（金五〇〇、〇〇〇円）
◎交通安全対策費　福井市へ拠出予定（金二、二五〇、〇〇〇円）
昭和五十五年十一月三十日現在



第4回 海外仏教文化交流

宗祖ゆかり 天童寺を訪ねて

道元禅師が入宋され、阿育王寺の典座との問答もこの港（船中）での出来ごとであろう。今は寧波のいわれ、宋代は慶元府といわれ、当時代では中国で一番大きな港であった。道元禅師はここから天童山へ、きっと田園を縦横によぎる川を舟に乗って行かれたのであろう。私達青年会参拝団は、マイクロバスで十六日天童山へ向った。三十分ほど走るとバスは「万松古園」と書かれた小さな石柱を通りぬけて、丘の上にそびえ立つ五仏塔へと向った。求法一念の雲水姿で行脚する高祖様が山道を歩いて行かれるのが頭の中に交錯した。第一、第二、第三山門とバスは走りぬけ、突然に一面明るい万工池、七仏塔の前に出た。

団員一同さすがに緊張気味であり、団員の一人が天童山のたたずまいを見て「永平寺の山色に似ている」と言えば、他の人が「いや永平寺が天童山に似ているのだ」といった会話が聞こえてくる。

天王殿前に迎えに出ておられた知客和尚の先導で、天王殿を参拝し仏殿にて佐藤団長の導師にて拝登諷経をつとめた。

仏像は六月拝登の折は泥仏の素地であったが、今は金箔と色絵が施こされまばゆいばかりに美しくこんなに早く立派に仕上げたものだ、十月一日の国慶節の落慶法要に間に合うよう諸堂修繕が急ピッチで行われたのであろう。

やがて控室宿舎に通され、大変豪華な普茶料理又十六品もの精進料理、料理人は在家の人々の心のこもった料理であった。

住職広修法師の挨拶は、「青年会参拝団の皆様に熱烈歓迎の意を表し、七百年前日本の道元禅師は天童寺で修行され、日本曹洞宗の開祖であります、この参拝を機に、日中両国の友交が益々深まることと存じ、又諸堂が修繕され、得法霊蹟碑が建てられることとなり大変うれしい。」と述べられた。

それに対し佐藤会長は、「当山に拝登し、一木一草に七百年前道元禅師が修行したその精神が宿っているように感じ、特に境地が永平寺と似ていて、道元禅師の溪声山色の歌を思いうかべ、これを機に日中仏教の友交が益々と深まるよう祈りますと供に、熱烈歓迎に対し、仏教協会ならびに天童寺の皆様に厚く御礼申し上げます。」と答礼され、日本より持参の土産を、団員一同の志を住職に手渡され、誠に有意義な交歓会であったのである。

この交歓会ののち私共青年会は天童山に一泊させていただけることになったが、他に永平寺の二班があるのに、よほど運がよく、その法幸を互に幸びあった。

十一月十七日午前三時半起床、寺側の用意していただいた湯で顔を洗い、衣儀を整え仏殿に向い、東序側中国僧、西序側日本僧により朝課がつとめられ、念仏まじりの独特な、お経で堂内を大きく二匠したが中国僧がずいぶん多いので注意して見ると、各地の寺へ拝登した時にお見かけした僧の顔が多く本日の大法要の為、各地より随喜しているようだ。

又、侍者の僧など若い人が十名ほどいたが、この若い僧は袈裟をかけていないので、未だ具足戒を受けていないのかもしれない。

日中百名以上の僧による和光同座の朝課後、都寺と思われる僧により、仏殿横に新に建てられる碑の洒水浄道場が行なわれた。

東南アジアの小乗仏教国でも洒水は行なわれ、中国僧衣の簡素な法服は、東南アジアの小乗仏教と似通い、又日本の各宗派でも、修行や報恩行事の折は、木欄系の法服を使っているようで、仏教の本質が、国や風習を超えて残されているのに何故かうれしく感じたのは私だけではないであろう。……

…九時、不老閣猊下到着後、仏殿にて大法要がおこなわれた。

最初に広修住持を導師として、東序側にならぶ中国僧の法要後、日本僧の法要となった。

猊下の導師でつとめられ、拝登諷経位次で、如浄禅師の略出班による報恩諷経に引続き、仏殿横の堂内に新に建立された「道元禅師得法霊蹟碑」の除幕式が、日中合同にて行われた。（表の碑文は、趙撲初中国仏教会会長の筆で、裏面は不老閣の誌文）ここ天童山は「我が宗門発祥の地」と不老閣の誌された如くであり、この碑が永久に存することを祈りたい。

昼食は法堂において、三日ほど前より準備された二十二品の心尽しの普茶精進料理であった。

北京では、中国仏教協会本部があり、万松行秀禅師もかつて住した広済寺を表敬訪問し、又仏教学院のある法源寺を参拝した。

今日の旅行に於てこの仏教学院の授業参観は大きな意義があった。

中国は、革命等の長い国造りの間に、若い僧侶がいなくなり、このままでは中国仏教の将来が暗黒のように言われていたが、この数十名の若い僧がきっと中国仏教の将来を背おってくれることを思うと、光明が大きくさしこんだように思えた。

十一月十二日蘇洲に入った。ここでも仏教協会の歓迎を受け、美しい欅の並木道をバスは通りぬけ、浄土宗の西園寺を参拝した。

伽藍仏像は北京の寺と同様すばらしいが、この寺の五百羅漢像は中国一であろうと思われるほどすばらしく次で、山上の霊巌寺を参拝、独特の念仏禅を目のあたりに見聞し、夜は蘇州飯店に泊り翌朝有名な寒山寺を参拝し、鐘楼にも上り又詩石を見た。

その夕暮れ、客室で「烏啼いて（タタスナ）」か、「烏啼山」という山なのか青年会参拝団と中国がわとで通訳を間にし、一時間余り、議論百出したが、結論の出ぬまま寒山寺をあとにして、虎丘、西園寺を観光し、夕方おそく杭州に向った。

十一月十四日早朝、西湖畔の如浄禅師が天童山に進住する前に住した、浄慈寺へ、禅師の墓を参拝し、土饅頭型式の墓は近日改修されたもので、大久保道舟著「道元禅師位の研究」にある写真の石塔は無く、五山の一つに数られた名刹浄慈寺は、おしいことに現在廃寺となっていた。

有名な霊隠寺は、宏智正覚禅師も住した寺であるが、一日一万人の参拝者で賑わい、立派な仏殿と本尊様をはじめ、門前の石仏群はすばらしかった。

杭州では、西湖遊覧、六和塔等の観光をして十七日寧波を過ぎて育王寺を参拝し、育王寺の大慧宗杲の看話禅と、天童山の宏智正覚の黙照禅の二大門派の法論は有名であり、五仏塔の摂譲亭にて出合い肝胆相照したと伝えられる。

育王寺は四人組時代に荒されたが現在修理中で、阿育王塔は修繕の足場が組まれていた。

十一月十八日は、ビルマより伝来したといわれる上海の玉仏寺を参拝した。

参拝者が多く、施主供要の法要も行われていた。

上海空港を立つ時には、通訳でお世話になった、「遽さん周さん」との別れは少しさみしかった。

今回の旅にあたり、中国側の熱烈歓迎と、中国仏教会の暖い受入れに厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、途中団員に病人が出ましたが、杭州病院に入院し中国医師団、看護班のほんとうに、手厚い温い親切な介抱を得て小康をとりもどし、添乗の三越旅行社が組織をフルに使い、不自由な外国で急拠帰国の段取りをして下された。これらの関係者には特別に深く御礼を申し上げ筆を置く。（昭和五十五年十一月記）

——天童山の概略は「曹青通信」第十六号で述べましたので、省略させていただきました。

◇　◇　◇

如浄禅師之墓

声

四国の夏の風物詩、"阿波踊り"の有名な呼び声は『踊る阿保に見る阿保、同じ阿保なら踊らにゃソンソン』と、騒やかにはやし立てる。

街を挙げて操り拡げられる御祭り騒ぎ、もし貴方でしたならば、「踊る」か「見る」か。

忙がしい合い間をぬってスポーツや、趣味に汗を流す人々が、とみに最近増加して来ている事に着目してみたい。

『休みは朝寝とテレビ』と決め込んでいた人達が自ら何かに参画して行く意義を今一度考えてみたいと思う。

謗観者からの脱脚

本会の常任講師である、東京国立博物館の杉山二郎先生が、地方集会で講演される度に「レース中のマラソン選手に車の上からメガホンで激励している人に青年僧侶は決してなってほしくない。

人生のレースは決して謗観者を認めないのだから」と熱っぽく我々青年宗侶を叱咤激励された事が思い起こされる。

即ち「謗観者」であってはいけない……と。

積極的な仲間作りと勉強会

宗侶同志の研修会のパターンは大体決まっていて、講師の話を聞いて分科会、全体会議、そしてアッピールと、問題はその後のアフターケアーと共同作業をどう進めて行くかと云うことであろう。

今一つは、社会の多様化に対応するためには宗侶仲間だけの研修に留まらず、積極的な交流会を持つ必要が有るのではないか。

しかしその為には宗侶側の定例勉強会が充実してこなければならない。

テーマを決めた勉強会が必要

古の高僧の天才ぶりを羨望するわけではないが、宗侶が三界の導師に一歩でも近づく努力の具体的行動を今こそ青年宗侶の間で積極的に取り組む姿勢を展開して行かねばなるまい。

その第一として教育者との勉強会である。昨今、家庭や学校での暴力事件は重要な社会問題になっている。受験競争や他の社会的な要因があるにせよ、防犯に携わっている人々達とも共同の研修会を進める必要があるようだ。

第二は医療業務に携わる人々との「心と体」についての研修会は有効な手段とであり、以前布教師養成所でもそうした試みがなされユニークな一面をのぞかせたと聞く。特にこの分野の研修会は回を重ねて自らが経験の積み重ねを研讃し合わねばカウンセラーとしての対果は挙がらない。単発の会合では充分意識が盛り上がらず、自分達の仕事として認識されないからである。

第三には自然化学（地理、生物、天文学等）の分野で活躍している人々との交流会は、教化面での細部にわたって応用が出来る事と、話題のつなぎに絶対欠かせない。

第四には法律（宗教法人法はもちろんだがそれ以外の生活に関するもの）に対する基本的な知識を得る学習会である。

生病法は大怪我の元であり、各々の分野について細部の具体的な件については、それぞれ専門家に任せざるを得ない。しかしながら話題を拡げ、相談を受けた時、基本的なオリエンテーションが出来る事、自分で出来ない場合は専門分野の知識を持っている人を紹介出来る力量が必要ではなかろうか。

続ける事、そして自らが主体者になる事

こうした研修会は既に行われている所もあると聞く。

青年弁護士を囲んでの研修会では具体的な寺院と檀信徒の関係、住職の寺院における居住権の有無等、日常、何気なく過して来たことでもふり返らざるを得なかった事が続出したと云う。

また専職者、兼職者が、宗侶としての同行を、研修会の中で意議付け、各々の分野で活躍する「宗侶」が、地道に研修を続ける事を再度青年宗侶に提案してみたい。

僧俗一体の研修を目指して 大きく一歩を歩み出そう

事務局日誌

◎十月三日
関東地区連絡協議会　於宗務庁
◎十月十三日～十四日
第五回東北地方集会秋田大会　於　天徳寺
第四回東海地方集会愛知大会　於渥美伊良湖
◎十月十六日
全日仏青常務理事会　於増上寺
◎十月二十日
カンタータ「只管打坐」レコード作成について打合せ
◎十月三十日
曹青通信第十八号発刊
◎十月二十九日
研修委員会開催
奉讃実行委員会開催
◎十月三十日～三十一日
第九回九州地方集会長崎大会　於　諫早市
◎十一月四日　事務局会
◎十一月九日～十九日
第四回海外仏教文化交流
中国天童寺拝堂
◎十一月二十九日～三十日
第五回関東地方集会神奈川大会　於大雄山
◎十二月一日
三重県出張　会長、事務局長
◎十二月五日
アオイスタジオ（レコード）
最終打合せ

※会費納入のお願い

昭和五十五年度も、はや一週間で終ろうとしております。

さて、全曹青会費本年度未納の方は、同封振替用紙にて御送金下さるよう、よろしくお願いいたします。（正会員年額金一〇〇〇円）

尚、地区単位曹青にて納入の場合は、納入会員名を書き添えて下さい。又全曹青会員名薄作成の為同封振替用紙の裏面かハガキに、生年月日、郵便番号、住所、電話番号、地方役職名、賛助会員、正会員を最後まではっきり書きそえて全国曹洞宗青年会本部事務局宛にてお送り下さい。

曹洞宗青年会会員各位

◎伝道掲示板について

「全曹青」設立以来、種々の配慮とご協力をいただいておりました光化成株式会社製作の「伝道掲示板」は、昭和55年12月1日をもちまして全曹青本部での取扱いは、相互の話し合いの上、終了いたしましたのでお知らせ申し上げます。
ここに関係各位のご協力に対し心より御礼を申し上げます。
尚、期間中に掲示板を購入され、代金の支払が済んでいないご寺院様には、至急下記宛、ご送金下さるようお願いいいたします。

（払込先）　三重県度会郡度会町下久具
（光化成株式会社）　伝道板係
（振替番号）　名古屋―1022

ご存知ですか？———ご利用のテクニック

●無料と有料の区別を知る

駅のコインロッカーも高価になったもので、おいそれとは利用できません。そんな時ホテルのクロークがお役に立ちます。通常の場合そのホテルの過去・現在・未来の利用客であるあなたの荷物を無料でお預りいたします。

又日本の標準以上のホテルでは、客室にカミソリや石けん、歯ブラシそれにシャワーキャップなどちょっとした小物が備えてあります。たとえご使用にならなかった場合も、お土産に持って帰ることができます。但し、浴衣、タオル類は無料でない場合がほとんどですから、是非欲しい時は、係に話して、お買い求め下さい。このあたりの機微を心得る事が上客となるコツと言えましょうし、私どもとしては上司に頼んでも原価でお譲りせざるを得ないというわけです。

フロント係　小山 真理子

東京グランドホテル　〒105 東京都港区芝2丁目5番3号　☎03(454)0311代表